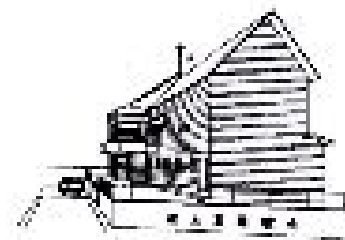


<今朝の聖書から> 13 節に“彼らが帰った後”とありますが、これは誰でも知っている東方の博士たち = 占星術師たちのことです。今朝のクリスマスの出来事は、心安らぐような出来事とはなかなか思えない記録です。どんな内容でしょうか。はじめ神様は、人間を良いものとして造られました。その罪はだんだん大きくはらみ、世の中全体を嘆きに導いてしまいました。個人の生活ばかりでなく、世の中全体の抗争の中で、人々は、おそらく全ての希望を失っていました。嘆きの中でも希望を失わないことは大切なことですし、私たちもそう思います。しかしどれ程のことが私たちに出来るか思ってみましょう。あまりに激しい悲しみや絶望・挫折は、慰めすら求めない時があるのではないのでしょうか。“余計な同情などして欲しくない”と思った事もきっとみんな持っているはず。この時代がまさにそうでした。信仰的には、“人によって作りかえられた律法”の時代でしたし、政治的には、ローマの属国になっていました。殺戮が日常的に行なわれ、私たちの知っている歴史でいえば、カンボジアで何百万の有能な人々の命を武力をもって奪った、ポルポト政権下のようなものだったかもしれません。このヘロデという人も、ちょうど日本でいえば、戦国の時代の権力者のような存在で、自分のためには、誰でも殺す人でした。自分の子供まで最後には殺してしまったという歴史の持ち主です。将来指導者になりかねない、人々の子弟から順に殺し尽くすことに燃えたことが分かります(16 節)。今朝の礼拝に私たちは、詩篇 3 篇のみ言葉をもって招かれてきました。“私は安らかに伏し”主に感謝を捧げていますが、寝ることは不安であり“今日も命がえらえた”と思い、起きる事は“今日もまた生きなければならない”と思った時代かもしれません。ここに主のなされた業があるのです。力ではどうにもならない不幸をその贖いの業で、神の一番大切なものを持って、置き換えてくださったのです。嘆きの声は神に聞かれました。“慰めさえ求めない”ただただ続く泣き声です。ヨハネは正しくこのことを説明しました、“御子をお与えになるほど、御子を信じるものを愛されたのです(ヨハネによる福音書 3 : 16)”。クリスマスに始まる一年を主の愛の内にすごさなければなりません。その必要なことは、“もしそうでなかったら”と思い巡らせて見ればすぐに分かります。“慰められることさえ願わなかった(18 節)”にふさわしい、“愛も策略が支配する世界”がやって来るのではないのでしょうか(ローマ 13 : 8)。

# 週報

2009年 12月 20日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト  
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道 3 丁目 2 - 2 6

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042